

成度又申方派遣勞工家族ノ救済及貴電敵産ニ對スル「クレーム」ノ
 如キ極メテ重要ナル問題モアリ時日ノ遷延ヲ許ササルモノアルニ付
 此ノ際擔當官ノ派遣若クハ當方擔當官ノ上京ノ何レカノ方法ニヨリ
 此ノ諸問題ニ付一括對策ヲ決定シ置クコト肝要ナリト存スルニ就イ
 テハ至急右様御手配ノ上御回示相成度
 北京ニ轉電アリ度
 支へ轉報セリ

外務省

一〇二九 受信二〇一七 譯了二二三五 電〇三八四五 特政
外務省

(三)

看 外務大臣 (東通)
敬 北京連絡

平井調査官

第二八一四二九番電

夏子

送還華人勞工ノ家族ニ關スル件第十號

オウ電第七號 上海居住家族二七五 (電二八〇名ハ誤リ)

ノ生活維持紛議ハ二十六日市社會局員立會ノモトニ左記條件ニテ一

大竹ノ水及時報決ス

記

一、雇傭者概ヨリ家族生活維持費トシテ工人一人當法幣五〇〇〇元合

計一三七萬五〇〇元ヲ支給ス

二、家族ノ要求スル二萬五〇〇元法幣一人當リ十一月十日迄ニ雇

電信寫

49

2

僱者側返電ヲ待チ以メテ協議ス

三、雇傭者側極力速ニ工人ノ歸國ノ手段ヲ講ス第一項ノ金額ハ本使ノ責任ニ於テ民間ヨリ借入支給セシモ第二項以下ニ就イテハ現地特殊事情ヲ充分考慮シ措置方至急御指示相成度

前記期日遠延スルニ於テハ暴行ヲ伴フ紛議ヲ生スル虞レアリ
念ノ爲北京ニハ特電在リ度

(シナノシ)へ轉報セリ

(東通社 本電再送中)

(電信課社 北京ニ轉電済)

二

右竹子

平中油

昭和二〇

平

塘沽

十月三十日

十一〇

三十一日

管

吉田外務大臣

(陸軍經由)

折川 候事

外務省

(華人勞工及引揚邦人ニ關スル件)

辰日九ハ二十九日十時三十分塘沽利港ニ着埠ス華人勞工一五三三名

何レモ至極元氣ニテ(一名精神ニ美狀ヲ至シ投身ス)上陸十四時三

十分馬公ニ向ヒ出發セリ同船ハ邦人引揚者三二六一、軍官四三九、

台計三七〇名ヲ乗船シ十一月一日九時博多港ニ向ヒ出帆ノ豫定

向今後當地同船船ニ到シテハ左記ノ結連營會等ヲシテ周知セシメラ

レ度

一塘沽利港ハ五、六千噸級ニ、三隻ハ着埠可能ニシテ當地ニハ現在

「ライター」曳船ノ使用シ得ルモノナキヲ以テ沖ニ於テ乗下船ハ

殆ト不可能ナル状態ナレハ各船トモ利港ニ着埠スルヲ原則ト致シ

電信寫

51

度

二 當地船谷船ノ吃水ハ五米以下ナル様「バラスト」等過宜操舵セラ

レ度

三 引揚谷船トモ一五〇ノ夜ノ隊歸トシテ誘行セシメラレ度

陸軍省ハ外務省ニ北京方面軍ハ北京入使館ニ待ヘラレ度

迎見先 外務省 参考 北京入使館

外務省

昭和二〇 一一八六五 平

大阪 十一月

三日一八一二着 發 連

兒玉總裁

第一六號

(支那勞務者ニ對スル支拂勞銀ニ關スル件)

當地僑勞務ニ從事シ居ル支那人勞働者約八百名ハ七日頃本國ニ送
 還セラルル善ナル處支那人代表ハ勞務契約ノ相手方日本僑勞會社ニ
 對シ勞銀ノ支拂ヲ追リ居リ當地駐屯米軍第九師團司令部之ヲ支持
 シ彼等ノ出發迄ニ本件ヲ圓滿解決スル様當事務局ニ七月三注意ヲ喚
 起シ來レリ

然ルニ會社側ハ斯ル資金無キヲ以テ政府ニ之カ支出方請願スル為代
 表者ヲ上京セシメタル處本件ハ五日ノ協議ニ上程セラルル趣ナルニ
 付テハ至急右解決策決定セラルル様御祈願請フ(了)

電信寫

外務省	內務省	警備省	武官	海軍省	兵部	行政	通商	交通	功務	法務	衛生	健生	衣製	主計	總務	兵備	兵備	兵備	報務	車道	車道	車道	恩賞	人事	文書	副官	次官	大臣
-----	-----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

外務省
第二部

三略號

普通電報

三井物産

次官

支那派遣軍總參謀長(南京)

總參三電第五八七號(通註一部未着十九日取敢之配所)

豫テ南方總軍ノ要求ニ基キ中央ノ指示依ル事申ヨリ斡旋セ

ル華工ハ互記ノ如シ

陸軍關係

一、舟大工當初約三〇名(國際運輸擔任)

二、石油ノ關係當初約二五五名(聯合擔任)

海軍關係

三、舟大工當初約一八五名

右三件留岸家族ヨリ生活維持費ノ給與ニ関シ強硬ナル要求アリ

テ擔當者ハ相當迫害ヲ受ケ、アル實情ニ在リ之ガ細部ハ外

(全果)

照
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

電信寫

大竹子政史

山川事政史
車中浦甚官
要事

金松多務長
移不

昭和二〇

平

上海

十一月

五日一五〇〇着

吉出外務大臣

土田公使

第一一號 (車第三一〇七三一)

(南洋海運所屬南進丸米祖中國船員ノ負狀調査ノ件)

南洋海運所屬南進丸米祖中國船員家族ヨリノ同台セモ有リ同船及船

員ノ別仕尊ニ女台ノ負狀許編折返シ同富アリ度シ同本年七月一日以

降用万面、函信函管トナリタル趣キナル所家族ニ對スル給與ノ處

理簡記等台セテ報百ラ請フ

南洋海運所屬南進丸米祖中國船員家族ヨリノ同台セモ有リ同船及船

55

外務省

電信寫

昭和二〇

午

上海 本省

十一月五日 一五〇〇着

官

外務省

吉田外務大臣

(海軍部) 一二七三六

(日工員ノ家族送金ノ件)

買取第一三號第八八號ニ關シ正金社由送金ノ趣ナル賣金ハ正金ニ付
 該賣セルモ送金ノ事實判明セス再詢アリ長崎港遊船ノ預圖ニ依リ言
 島ヨリノ輸入石炭代金申ヨリ上海市政府ト協談シ港運業協會ヲシテ
 正金口ニヨリ家族生活補助トシテ昨午九月廿九日本年九月起ニ歸備
 分九〇六二五元ヲ支拂ハレタリ御参考迄

土田公使

(了)

電信寫

吉田外務大臣

昭和二〇

平

上海

十一月十七日

七日

午後二時五分

電

吉田外務大臣

吉

土田公使

外務省

運送華人勞工ノ家族ニ關スル件第一七號應答第一〇號ニ付シ米多
 國ナク且大化ノ虞アルニ付十日迄ニ必ラス何分ノ御指示アリ度備上
 海居住家族ノ不在者五名來行合計二八〇名トナレリ
 北支ニ寄附アリ度
 支へ電報セス

57

電信寫

本島子船
右ハ離走セ儿モノナルヤ同船ノ噸數共ニ折込シ同電アリ度(了)

昭和二〇

平

青島
本省

十一月七日一八五六號
七日一九五一着

管

外務省

吉田外務大臣

吉多總領事

(海軍經田、王冠)

(辰日丸ニ歸スル件)

海軍省來電ニ依レハ辰日丸十二日博多發青島ニ區航ノ趣ナルトコロ

外方

略號

至急電報

宛 次官

甲方參三覽第一六四九號

甲集團參謀長(北京)

一	二	三	四	五	六	七	八	九
一	二	三	四	五	六	七	八	九
一	二	三	四	五	六	七	八	九
一	二	三	四	五	六	七	八	九
一	二	三	四	五	六	七	八	九
一	二	三	四	五	六	七	八	九
一	二	三	四	五	六	七	八	九
一	二	三	四	五	六	七	八	九
一	二	三	四	五	六	七	八	九
一	二	三	四	五	六	七	八	九

青島總領事傳ヘラレ度

前電甲方參三覽第一六三三號ニ関シ辰日丸ノ青島入港ニ関シ

同船歸還勞工ノ貴地ニ於ケル受入ハ殆ド不可能ト認メラルル現

狀ニ伴ヒ重大事態ヲ惹起スベキヲ以テ是非共塘沽週航方東京

ニ要請セル所貴地入港ハL.S.T.塘沽使用ニ依リ米軍ヨリ

変更指定セラレタルモノニシテ東京ニ於テ目下米海軍ニ交渉中ナ
ルガ貴方ニ於テモ特ニ之ガ趣旨貫徹方圖ラレ度旨折返返電
アリタラ以テ貴地歸國邦人ノ事情ハ十分察セラレルモ貴方ヨ
リモ貴地米海軍側ニ詳細説明ノ上貴地米側聯合互最
高司令部へ意見具申セラルル様御努力相成度
南京大使館ヨリモ然ルハ善處米海軍ニ右趣旨折衝方配

慮アリ度

通電先支那領事

(二語不明)

参考

渡官 霧野 軍

(参)

全書資料

大竹

カニ部長

本信一配布先

局長

カニ部長

電信寫

昭和二〇 一一八七五 平

小樽 十一月八日一五〇〇發
本省 八日二〇二〇着 管

管理局二部一課

大竹 事務官

運航部長

(至急)

(華工送還ノ件)

進駐軍札幌司令部ヨリノ指令ニ基キ主要鑛山ヲ先順位トシ該鑛山
 ニ配屬セラレタル華人鮮人十一日一〇〇〇名宛鐵道輸送ヲ行ヒ四
 十一日間ヲ以テ送リノコトトナリ七日進駐軍ニ於テ右打合會開催
 セラレ其ノ際當局長ヨリ右期間内ニ配船アリテ一九〇〇名以上ヲ
 送還シ得ル場合ハ他ノ空床ニ港灣華工ヲ押入レ送還方要望シ大體
 了解ヲ得タルモ本件ハ九日確定ノ見込ニ付現地ヨリモ「タイラー」
 中佐ニ本要望ヲ申出テ同中佐ヨリ札幌司令部へ同一要望ヲ提出セ
 シムル様取計ヒ置キタリ

(了)

外務省

要再回
印本附

第三部長

平井長

本信配布せん
第三部長
第二部長

電信寫

昭和二〇 一一九一一 平 博多 十一月九日一七〇〇發 管

本省 十一月一日〇一三九管

兒玉總裁

袴田囑託

(華工乗船ニ關スル件)

前電照榮丸ノ華工乗船ニ關シ其ノ後ノ現地司令官ヨリ(榮寶丸ハ
十二日十六時博多入港ニ付)華工ノ乗船ニ關シテハ義ノ命令ヲ取
消シ追ツテ指示スル旨ノ通報ニ接セリト(了)

外務省

第二部長

手井

本信既布先
加二部長
同加一課長

電信寫

昭和二〇 一一八九八 平

福岡 十一月九日一四〇〇發
本省 十一月一九〇〇着 連管

管理局第二部長

福岡本部所長

(至急)

(華工輸送ノ件)

袴田囑託ヨリ

華工輸送ノ件

(一) 本日現地司令官ヨリ榮豐丸乗船ニ付左ノ如ク命令アリ

記

田川六三四、門司二三三、宇部一九三、防府一一、計一〇七一

明十日乗船セシメヨトノコト

右中央ノ輸送計畫ト齟齬スルモノニシテ若シ中央ノ計畫通り華

工ノ鐵道輸送進行中ナリトセハ必然的ニ混亂ヲ免レス善處方請

フ

外務省

- (一) 襄ノ江ノ島丸ニハ本省側指導者乗込マシ得サレト事業隊附添人ヨリ代表ヲ選ヒ充分ナル指示ヲナセリ
 - (二) 榮豊丸ニハ是非共本省側ヨリ指導者ヲ乗船セシムル要アリ選定ノ上至急派遣セラレ度何分ノ返請アリ
- (了)

外務省

要再回

部長附

管理三部長

中三部長

本信配布

局長

中三部長

ニヤ二部長

電信寫

昭和二〇 一一八九一 平 札幌 十一月十日 一、〇〇〇 發 連

兒田玉務總裁

石井事務局長

(至急)

(鮮工、華工送還ニ關スル件)

絡札第三五號

當地米第七七師團ヨリ華工鮮工輸送圓滑化ノ爲青森函館間ニ乘客定員一〇〇〇名以上ノ連絡船二隻増配取計方最高司令部宛電報セ

右ハ誠ニ機宜ノ處置ニテ現在青森ニハ貨車一〇〇〇輛滯留シ居リ北海道ヘノ食糧人員輸送ニ非常ナル支障ヲ來シ居ル折内華人鮮人ノ急速ナル輸送ヲ爲ス要モアリ是非共右連絡船増配方實現アリタ今同ハ先ツ炭鑛夫ヲ輸送スル次第ニテ尙鐵山坑夫港灣工夫モ一二萬ハ殘留シ居リ之亦送還ヲ要スルコト勿論ナレハ今後モ引續キ輸送計畫ヲ樹ツルコト必要アルニ付御含アリタシ(了)

外務省

64

外務省

略號 普通電報

宛 次官

甲 部隊參謀長

(北京)

甲方參三電第一六一三號

此地ヲ歸還ノ華土人勞務還リ金ノ交換比率ニ関シ圖表ニ
 甲方參三電第一五七九號ヲ以テ五一倍トセラレ度旨茲ニ當方
 ニ於テハ暫定處理法通電也ル所第三船モ近ク入港ノ予定
 ナルヲ以テ早急指示アリ度
 尚第三船以降ニ就テ早指示アリ迄ハ第一第二船ニ準ジ處理ス
 ル付諒承相成度

吉
 大

二六、三八、二一
 二六、二五、二五
 二七、二五、二五
 二九、二五、二五
 吳受若孫
 /6

既ニ別紙ノ通及電解

之再
大牛

二ノ一

平井油屋官

山川多岐交

一 又信一四一二
 一 詳知一四二九
 詳了 一四三二
 電 〇一四五三
 〇一四六七
 外務省
 行政
 三令

省 傳 單 官 副

5

三分三三

第一一〇四六番電

二 貝島第二... フネモクク... 準備契約ハ終... 共ニ契約解
 除セフルル... 船キナルモ... 船キナルモ... 船キナルモ
 同カ下ニアリアハ通用セス... 假ニ準備省... 契約上ノ責任ナキモ
 ノトスルモ「フネモクク」... 歸國途ハ日本政府力責任ヲ追究セラル
 ルハ必然ニシテ執レニセヨ日本... 於テ責任ヲ執ラサルヲ持サル
 モノト心得ス
 三 前二坂ノ連山ニ依リ... 方トシテハ往... 第一〇... 宛申進ノ進取取ス本
 便ノ責任ニ於テ一家族一〇〇萬元(法幣五十九元)ヲ追加支給シテ
 當座ノ用カテ緩和セル「カシ」社會局ノ請停セル家族... ノ要求ハ

前日ノ通ニテロノ商勢ニテハ支那ノ外ナシト認メラル
同夜場
物價騰貴ノ由ガニリ見テ早急収斂ムルヲ待来トス
右資金ハ口平以用ノ委任ヲ受ケ本使ノ中露政府ヨリ借入ルル以外
ニカムナク以用ト日本航運兼管トノ内部問題ハ今後ニ持越ス外ナ
千次知ナルニ付念局
又ニ持越セリ 北京ニ寄附アリ

電信寫

昭和二〇

上海 十一月十一日 一三三六發
本省 十一月十四日 四四九發
管

吉田外務大臣

(海軍經由第一一〇四六番電)

第一九號

貴電第九〇號ニ謝シ

左記運輸省ト御打合せノ上同電アリ度

一 本件ニ就テハ本年六月一家族當リ儲備金二五萬元ヲ支給シ從來ノ扶助ヲ打切ルコトトシタルハ事實ナルモ終戦ト共ニ一般ノ工場争議風潮ニ乘シ再燃セルモノニシテ右ハ一時支給金ノ減少(當時トシテモ一月分ノ生活費ニ足ラス)家族困窮ノ事實ヨリシテ當方トシテハ右ノ理由ヲ以テ飽迄突張リ得サルモノト思料セララルル外本件及南方派遣並工問題ハ相當中國側當局ヲ刺戟シツツアル政治問題ナルヲ以テ姑(脱?)歸國迄ノ家族扶助ハ從來ノ経緯如何ニ拘

外務省

8

ラス
、其ノ事
實ナキニ付
、第一三編ヲ
、其ノ事
實ナキニ付
、第一三編ヲ
、其ノ事
實ナキニ付
、第一三編ヲ

後

69

(平)

手紙
少
高
改
軍
中
多
人

一 一 一 一 一
又 一 一 一 一
詳 一 一 一 一
知 一 一 一 一
一 四 二 九
了 一 四 三 二
電 一 一 四 五 三
一 一 四 六 七
外 務 省
行 政 部
三 令

省 長 官 副 官

第一一〇四六番電 三分三三

一、貝島第二項ニ依レハ「フネモクク」準備契約ハ終戦ト共ニ契約解
除セラルル趣キナルモ新條ノ形式的法定ハ現在ノ案点セル當
前カ下ニアリアハ通用セス 假ニ準備省側ニ契約上ノ責任ナキモ
ノトスルモ「フネモクク」締結迄ハ日本政府カ責任ヲ追求セラル
ルハ必然ニシテ執レニセヨ日本側ニ於テ責任ヲ執ラサルヲ行サル
モノト心得ス
二、前二項ノ理由ニ依リ電方トシテハ往後第一〇號申進ノ通知取入本
便ノ責任ニ於テ一家族一〇〇萬元（法并五十九）ヲ追加支給シテ
當座ノ借方ヲ緩和セルニカ 中 社管局ノ調停セル家族ノ要求ハ

10

前記ノ如キアロノ内勢ニテハ文部ノ分ナシト認メラル。同院
 物價騰貴ノ由ガニリ見テ早急収斂ムルヲ待テトス
 右資金ハ口平以テノ委任ヲ受ケ平使カ中興政府ヨリ借入ルル以外
 ニカハナク政府ト日本航運業會トノ内閣問題ハ今後ニ持込ス外ナ
 千次知ナルニ付急為
 又ニ持込セリ。北米ニ海軍アリ反

71

昭和二〇

吉田外務大臣

北京 十一月十一日一六一五發
本省 十二月一八三五着
管

楠本公使

至急、甲部隊參謀長經由)

(引揚邦人用配船ニ關スル件)

毒子物カ
 佐東副司令 南京ヨリノ連絡ニ依レハ榮鳳丸塘沽向辰日丸青島向北鮮丸上海間ニ
 余心ヲ物カニ定セラレタル趣キナル所現在天津、北平ニ集結中ノ蒙露在留邦人
 大竹ヲ物カニ感冬困難ノ情況ニアリ旁々塘沽ハ十二月下旬ヨリ三月下旬ニ掛ケ
 辛井油ヲ物カニ青島向ニ重點配船ノコトトシ夫レ迄ハ極力塘沽向配船方配慮相煩ハ
 シ度

尙歸還勞工ノ受入準備ノ件ニ關聯スルモ中國側及米國側トノ各段ノ
 手續準備工作ノ結果最近ニ至リ漸ク塘沽及天津ニ於ケル態勢ヲ整フ
 ルヲ得タル次第ニテ辰日丸ハ歸還勞工ヲ乗セ本日以内ニ青島ニ入港

72

スルトセハ時日ノ關係上之カ受人準備困難ト思考セラルルノミナ
ス殊ニ青島ニ於ケル所要ノ資金調達ハ目下ノ處全然見込立タサル
況（文通杜絶ノ爲北平ヨリノ現送モ不可能ナリ）ナルヲ以テ以上
事情等オモ勘案ノ上處理決定方配慮煩ハシ度
通電先次官、参考支總

略 號

第 35 號

外務省

普通電報譯一 一月 一二日 一時一六分發一 三日〇八三〇受
二三時四五分著 一四一五編

次 官 宛 發信者 又加派遣車總參謀長(東京)

甲万參三電第一六三一號

中日

事

傳

七

電

信

目下歸還シツツアル中國勞働者中大阪神戸各運來協會ニテ從事シテ
 リタル者ハ其數未受領ナルノミナラス契約スル者未相ナル狀況ニシテ
 到着後紛争ヲ惹起相富因却シアリ歸還中或勞働者全數ノ歸還ナル所
 決ハ現地治安其ノ能ニ及ホス影響甚大ナルモノトシテ關係方面ニ於
 テ誠意努力シアル所ニシテ爾後斯ノ如キコトアラシカ一大小群等
 惹起スル虞アルヲ以テ歸還方面ヘノ指導ヲ徹底セラルト共ニ石
 原省ヲ次始ニテ當地へ出張セシムル期ク收計ハレ度

通電先 次言 電車(一)

石外訪省ニモ待ヘラレ度

(一)

74

二月五日
行

昭和三〇

東京 十一月十二日一七四〇
本省 十三日一七〇〇
信

吉田外務大臣

橋本公使

（陸軍部出、甲万参三電第一六三二號）

（歸國華人勞工ニ関スル件）

甲万参三電第一六二六號（二話不明）歸還勞工持込金交換資金調達
ニ關シ財政部特派員トノ初衝ノ経緯ニ當スレハ找カキニ於ケル勞工
受入所長資金調達ハ短少高ニハ向ニ合ヒ兼ヌル實情ナルノミナラス
（一話不明）各種ノ困難ヲ伴フヲ以テ近日丸ノ管島入港ハ取止メ塘

在へ同航方ヲ取計相成度

尙向後勞工ノ上陸地ハ屢次報告セル如ク塘沽ノミトセラレ候

通電先 次官、支使

（了）

75

外務省通告

略 號

至急電報

大行子少子 宛 次官

甲集團參謀長(北京)

甲方參三電第一六三三號

一東京ヨリノ通報ニ依テ歸還輸送ノ爲近ク辰日丸貴地入港

豫定ノ所同船ニ歸國華人勞工乗船シ居ルモノト豫想セ

ラルルニ付之ガ受入ニ関シ後記天津及塘沽ニ於ケル措置ノ

狀況御参考ノ上貴地中國側及米國側ニ連絡至急準備

ヲ進メラシ度(歸還勞工受入ニ就テハ諸準備及原有物資)

昭	二〇	一	一	一	一
	二	二	二	二	二
	三	三	三	三	三
	四	四	四	四	四
	五	五	五	五	五
	六	六	六	六	六
	七	七	七	七	七
	八	八	八	八	八
	九	九	九	九	九
	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	一一	一一	一一	一一	一一
	一二	一二	一二	一二	一二
	一三	一三	一三	一三	一三
	一四	一四	一四	一四	一四
	一五	一五	一五	一五	一五
	一六	一六	一六	一六	一六
	一七	一七	一七	一七	一七
	一八	一八	一八	一八	一八
	一九	一九	一九	一九	一九
	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇

調達ノ關係上及交通ノ狀況ヨリ青島及塘沽ノ二箇所トス
ルコトハ非常ニ困難ヲ伴フヲ以テ塘沽一本トセラレ度東京ニ申
請シアリタルモ貴地向配船開始セラルトセバ止ムヲ得ナルニ付
地中國側機關ニ依頼シ之が受入ニ萬全ヲ期セシ度當方ト

テモ第一戰區長官部ト(三語不明)講スルヲト致度

内地ヨリノ歸還勞工ノ總數約三萬人ニシテ既ニ塘沽經由ニテ
歸還セルモノハ第一船(江ノ島丸)一六〇〇人 第二船(辰日丸)
一五〇〇人 第三船(江ノ島丸)二三〇〇人ナルガ此等歸還勞
工ノ受入ハ中國側機關(天津ニ於テハ市政府ノ外ニ南京ヨリ

リ俘虜情報關係トシテ葉大佐駐屯)が直接ニ當(二語不明)

トナリ日本側ハ事務費(給食費旅費其ノ他一切ノ雜費ヲ

含シ)勞工持還リ金交換資金(日本圓元金及元金ノ五

倍トス各人持還リ金交換票持參)及慰勞品(勞工

服煙草燐寸急救藥食糧等)ヲ調達ノ上中國側

ニ交付シ爾餘ノ措置ハ中國側之ヲ實施ス

中國側ニ於テハ塘沽ニ於テ下船シタル勞工ハ一應之ヲ天津郊

外北洋大學ニ收容シ其所ニ持歸リ金交換物品供與身

元調査等ヲ行ヒタル上適宜歸郷セシメアリ

三、慰勞物資ノ調達ニ関シテハ天津ニ於テ三萬人分ヲ中國側ニ交付
シアルモ此ノ内一部ヲ青島ニ輸送スルニ目下ノ狀況ニテハ恐ラク
困難ト思考セラルルヲ以テ貴地ニ於テ中國側ト協議ノ上調達
可能ノ限度ニ於テ準備スル外ナカルベシ 資金ノ内事務費
ニ就テモ三萬人分トシテ約二億七千萬圓ヲ中國側ニ交付シテ
ルモ之又分割スルニ困難ト思考セラルルヲ以テ別途適當
額ヲ貴地ニ於テ交付スルノ外ナカルベシ 持還リ金交換資金ニ
就テハ各船毎ニ又三(二譯不明)ヲ中國側ニ交付スルニトナリ居
ルモ以上ノ所要資金調達ヲ如何ニスルヤハ大ナル問題ニシテ

當方ニ於テ一財政部特派員ト協議中ナルガ之ガ解決ハ相當
長延ヲ見込ナルニ就テハ貴地ニ於テ此等資金ノ現地調達
及其他受入レ準備不適ハ場合ハ重大事態ヲ惹起スベキヲ
以テ辰日丸ハ塘沽揚ニ変更スルヲ要スルト思考セラルルヲ以テ至
急貴方ニ於テモ中央ニ對シ措置アリ度

東京ハ外務大臣ハ南京ハ堀内公使ハ傳テレ度

通電先 青島總領事 參考 次官 支那總軍 (二語不明)

(終)

北支
事務課
號

青島華界勸業銀行全體調達

宛 次官

甲集團參謀長(北京)

甲方參三電第一六三號

南本公使ヨリ吉田外務大臣へ

甲方參三電第一六二號 (三語不明)

歸還勞工持還金交換資金

調達ニ関シ財政部特派員トノ折衝ノ経緯ニ徴スレバ我が軍ニ於ケル
ル勞工受入所要資金調達ハ短期間ニ合ヒ兼ヌル膏情ニシ
ノミナラス (二語不明) 各種ノ困難ヲ伴フヲ以テ辰日九ノ青島入港ハ取

原大子(202)

一三、一三、一三
一七、一七、一七
一四、一四、一四
一四、一四、一四
受者
受者
受者
受者

止×塘沽へ回航方ヲ取計相成度
尚向後勞工ノ上陸地ハ屢次報告セル如ク塘沽ノミトセラレ度

通電先

次官 支總

(終)

外務省に於て

略號

緊急電報

宛 次官

甲方参三電第一六三三號

甲集團参謀長(北京)

昭二〇、一一、一四
一三、一七、一四、一四
一三、一七、一四、一四
一七、一七、一七、一七
一七、一七、一七、一七
受受者者
ハ

南本公使ヨリ吉田外務大臣へ

甲方参三電第一六二六號 (註不明)

歸還勞工持還金交換資金

調達ニ関シ財政部特派員トノ折衝ノ経緯ニ徴スレバ我が軍ニ於ケ

ル勞工受入所要資金調達ハ短期間ニハ間ニ合ヒ兼スル貴情ナ

クミナラズ (註不明) 各種ノ困難ヲ伴フヲ以テ辰日九ノ青島入港ハ取

止メ塘沽へ回航方ヲ取計相成度
尚向後勞工ノ上陸地ハ屢次報告セル如ク塘沽ノミトセラレ度

通電先 次官 支總

(終)

電信寫

即全
中若山堂

大
手
山
堂

昭和二〇

午

札幌

十一月十五日二八二〇發
十五日一八三五着

連

外務省

音 山 下 方 大 臣

給 札 第 四 〇 號 (王 冠)

(又 加 、 勸 勞 務 者 歸 還 輸 送 二 師 ス 凡 計)

賞 電 台 第 一 〇 號 二 師 シ

賞 電 内 容 ニ 付 追 贈 側 ト モ 連 給 シ 賞 施 ニ 島 全 フ 賜 シ タ キ ニ 付 左 記 至 急

送 給 雜 メ ノ 上 切 込 シ 有 線 ニ テ 返 贈 ム

追 贈 賞 勞 部 長 授 内 務 省 保 局 官 初 詠 衣 苑

年 、 婦 人 勞 務 者 送 還) 二 師 シ 紗 帆 送 給 中 央 警 務 局 ヨ リ 札 幌 警 務 局 ニ

到 シ 聯 合 車 司 令 部 ノ 預 令 一 上 陸 用 舟 艇 フ 使 用 シ 北 支 行 ハ 舟 多 、 中 支

行 ハ 鹿 尻 島 ヨ リ 送 出 ス ニ 付 永 船 艇 送 還 輸 送 ノ コ ト 一 フ 連 隊 ア リ タ

兀 力 札 幌 運 送 車 司 令 部 ト 連 給 シ タ ル ニ 本 月 二 十 二 日 發 、 三 井 美 咲 四

四 一 、 三 菱 美 咲 二 五 二 、 嶋 井 鐵 道 工 業 二 八 一 、 二 十 六 日 北 滿 運 送 隊

81

赤尾一三七、三井妙川六六一、二十九日三井尾別八九四ヲ来船地迄
 鐵道轉送セヨトノ指令アリ札鐵ニテ「タイヤ」編成中ナルモ指令通
 リ迅速左文ヘナキヤ至急指示請フ
 船内長備ハ現地ヨリ辨行スヘキヤ、来船地視ニテ注意スルヤ、
 現地ヨリ辨行セハ何日分ヲ準備スヘキヤ併セテ指示願フ（了）

一一一七 受信〇九四〇 譯了一〇一九

發 青島連絡部

著 東通

管、送

第一六一八〇五番電

發 北總領事

宛 吉田外務大臣

北支軍參謀長電報ニ依レハ新^辰日丸ニハ歸國華人勞工乗船シ居ルモノト豫想セラレ青島ニ於ケル勞工受入態勢整ヒ居ラサルヲ考慮シ同船ハ塘沽向配船方北京公使ヨリ要請アリタル趣向ノ處勞工受入ニ就テハ當方ニ於テ何トカ準備スヘク又居留民ノ強キ希望及當方面治安狀況ニモ鑑ミ米軍側ニ交渉シタル所新日丸ヲ居留民引揚ニ充當スル事ニ承認ヲ得タルニ付同船ハ是非青島ニ配船方御手配相成度尙今後青島ニ回航スル商船ハ全部居留民用ニ充當方米軍側ノ了解ヲ得タリ

外務省 15

二ノ一

昭和二〇

平

吳 十一月十八日一五〇發 連
本省 十八日 看

吉田外務大臣

服部事務局長

第八號 (至急)

(在村居濱華僑労働者ノ失業救済措置直振ニ關スル件)

在松山伊藤運給官宛電敬左ノ通り

第六號

第二師團ヨリノ報告ニ依レハ元任友嶺山ニ就働セル村居濱附近ノ支
那人約五百名朝鮮人約二〇名ハ失業シ衣食ニ窮シ不穩ノ候ヲ認メ
ラレ至急救済ヲ要スル狀況ナル趣ニテ第一〇軍團司令部ヨリ之ニ
シ日本側ノ採レル救済措置直査報方要求アリ就テハ縣當局措置中ナリ
ヤ至急回電アリタシ
本館總裁へ轉電セリ

外務省

略號普通電報

一八一八二二〇〇發

二六〇五發

一八二〇受

二一〇〇點

外務省

平井

大伴

宛次官

甲集團參謀長（北京）

甲方參三電第一六六〇號

日本ヨリ歸還ノ華人勞工ニ就テ既ニ二回ニ亙リ約三二〇〇ノ受入ヲ完了シタルモ之ヲ持歸リ金ノ交換ニ就テ政府側ノ方針ニ基キ五十一倍相當額ノ支拂ヲ爲スコトトシ二回分ニテ約一億七千萬圓ノ戦備ヲ我カ方ノ保有資金ヲ以テ完了セリ然ルニ第三回船ノ江ノ島丸既ニ塘沽ニ到營セル外ニ臺北交通供出ノ勞工約八四〇名大連福昌公司供出ノ勞工約二〇〇名等既ニ塘沽ニ到營シヨリ之等ニ對シ交換資金差當リ一億六千萬ヲ要スル所我カ方ノ保有資金既ニ皆無トナリ他方銀行接收ノ爲銀行預金ノ使用モ不可能トナリ茲ニ集結邦人自活ニサヘ困難シ居ル狀況ナル爲財政部特派員ニ對シ之カ融通方ニ就キ折衝ヲ重

電信寫

85

不居ルモ同特派員トシテモ勞工ノ持歸レル日本銀行券ヲ等價ニテ引換ラルコトハ考慮スルモ其ノ他ノ融通ニ就テハ權限附與サレ居ラス。檢索ヲ口實ノ下ニ之ヲ拒否シ居レリ。

斯クテハ現在天津ニ待機中ノ勞工ハ何時騷擾ヲ惹起スルヤモ知レス其ノ治安ニ及ホ)ス影響モ懸念セラルルノミナラス既ニ二回ニ亘ル五十一倍ノ交換ヲ實行シタル現在トシテハ等價ノ聯銀券ト交換スルノミニテハ到底勞工側ノ満足ヲ得ラレサルコトハ明白ナルヲ以テ貴方方針ニ則リ五十倍ノ慰勞金ヲ附加シテ交換實施スルコトト之等所要ノ資金(今後一船毎ニ少クモ六千萬乃至一億圓ノ資金ノ要アリ)ヲ日本政府ノ責任ニ於テ調達シ得ル様之カ斡旋方ニ請スル權限ヲ財政部特派員又ハ北平行營ニ對シ附與セラルル様緊急ニ財政部宛交付セラレ其ノ結果ヲ至急返電アリ度

(一語不明)共本件融通カ萬一絕對困難ナル場合日本側トシテモ本問題ヨリ全面的ニ手ヲ引キ華側ノ責任ニ於テ歸還勞工ノ受入ヲ實施

シ持歸金ノ交換ヲモ然ルヘク實行スル様依頼スルヨリ外ニ對策ナキ
モノト思料シ居ルニ付念ノ爲
總軍ハ右南京大使館、東京ハ外務大臣ニ御傳ヘテ請フ
通電先支總參考陸軍省（一語不明）桐惠

附報二〇

平

札幌
本省

十一月十九日

十九日 〇〇〇〇
四日 〇〇〇〇

管 送

兒玉總領

電報四七號

大正部長

(三、鮮工總務ニ就スル件)

往書第二九號、第三〇號ニ就シ

「チブス」發生ノ爲決定變更二十四日ヨリ實施決定ナルカ船泊送

ハ都合付キ次第其ノ程度早急實施ス

日本人勞務者ヲ就電セシムル爲食糧必要ナル處北海道食糧事情窮迫

米積込マシムル積是非御慮請フ七七師ヨリモ申請ホシム(了)

電信寫

88

外務省

昭和二〇 一一九五二 平

龍岡 十一月二十日二三〇〇
本省 二十一日〇八三〇〇

管理局第二 大竹事務官
平井調査官

森島事務官

(未拂還工賃銀問題ニ關スル件)

航運業會社工附添人ニシテ船中並工働ニ抑留セラレタル物部、野村
兩名天津ニ於テ一應日本領事館ニ引渡サレタル如キモ其後ノ事
不明セズ

加三部長

平井

大竹

森島

電信寫

本抑留事件ノ根本原因ハ航運業會ノ華工賃銀清算未了ニ由リ夫レニ伴
フ華工働ノ過大要求(現地ニ於テ一律ニ一人宛五千圓支給方ヲ主張
ス)ニアルモ現地ニ於テハ前記並工働要求ヲ容ルルニアラサレハ現
地ハ解決シ得サル情勢ニアルモノノ如ク現地ニ於テモ治安維持ノ立
場ヨリ本件並工働解決方ヲ望ムシ居ルニ付貴方指圖至急御返答相成度
尙次便江ノ事丸ヲ以テ本件解決並ニ抑留者引取ヲ兼テ高田場託ヲ
派遣致度シ
本件梶田氏ニモ御事ヘ請フ

(了)

89

大日本帝國政府

管理局二部二課

福岡事務所

昭二〇年十一月二二日

(國定規格B5 一八三×三五七耗)

華工送還期日確定、二三日柴豐、二五日江ノ島
 二七日明優、二八日辰日、コノウケ江ノ島ハ來船
 華工ノ割當計畫ナキ為止、ウラ得ズ延期セラレル
 模様ナリ、柴豐來込總計二二一五名ノ外大汽
 ノ船員少數アリ、高田囑託ハ取敢ヘズ柴豐
 ニ乘込指算スルコトナセリ、尚今後ノ輸送ニ関シ

大日本帝國政府

種々ノ問題ヲ生ジツツアルモ、ニニニ根道

事官、ホニブ調査官上京ニ付同官ニ書函ヲ

托シ報告スレ務

(國定規格B5 一八三×二五七粒)

略號普通電報

一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇	一〇〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

宛次官
認参員 第五七號

支那派遣軍總參謀長

豫南方總軍 要求ニ基キ 宋大指示ニ依リ 華中
ヨリ 斡旋セル 華工 左記 如シ

陸軍關係

一、ホルネオ 舟大工 當初約 三〇名

一、國際運 輸擔任 當初約 二五五名
ニ、フリッピン 石油 關係 當初約 二五五名

裏「ス」

(白油聯合擔任)

海軍關係

ライリツピン舟大工當初約一八五名

右三件、留守家族ヨリ生活維持費、給與

関シ強硬ナル要求アリテ擔當者ハ相當ノ迫害

ヲ受ケツツアル毎員狀ニマリ之ガ細部ハ外務ノ正充

上海公使發軍費及同援内公使發軍費ノ度

就テ之ガ解決方策ハ援内公使費ノ如ク

一切上海中國軍司令部ニ任シ其ハ經費ニ付

對華債務ニ繰入ルカ

二現地日本側ニ於テ中國ヨリ資金借入シ依然米穀
生活費ノ支給ヲ續行スルカノニ案ノ外

上海現地ニ於テハ之ガ爲[?]湯恩伯司令[?]部ト交
 渉中ナルモ當方ハ方來得[?]ル第一案ヲ希
 望シタル就テハ中央ニ於テモ右止ム得[?]ザル事情
 了承セラレ關係廳ト連絡[?]上同報相煩ハシ度
 通覽[?]次官
 参考[?]登[?]

終

外務

政一長

略號

何件ナリヤ

至急電報

郭蓋

定 次官

支那派遣軍總參謀長
(南京)

總參三電第七四二號

昭三
一三三
二九八
ワ三三
ワ三三
受著
15

三三三

三三三

三三三

三三三

甲方參三電第一六六〇號(通註未著?)ニ関シ何總司令部ニ
 對シ所要資金ノ日本側へ融通斡旋ノ權限ヲ現地華側ニ
 附與方目下申請中ナルモ右實現セサル時 尚日本側責任
 本問題ヲ
 於テ處理セントスルハ歸還華工ヲ繞リ種々紛糾ヲ惹起シ
 治安悪化ヲ招來スベキ虞極メテ大ナル現況ニ鑑ミ中央ニ於テ

略號 至急電報

昭示 一

宛次官

支那派遣軍總之謀長(南京)

總之 三電第 五九五號

登參電第 七三九号

早業ニ登參電第 七七一號ヲ以テ指示 五ニ交渉

方依頼セル南才派遣軍華人工員家族粉紛紛議ノ

件ニ関シ其後折衝セル結果 市社會局代表ノ

調停モアリ先ヅホルネオ^トニ派遣セル工員ニ七大家族

代表トノ間ニ左記要旨ノ覺書ヲ交換スル運トナリ

タルニ付 至急前電ノ如ク中央五ニ何總司令部ノ

諒解ニ得ル如ク處置相煩度

追而他ノ二件モ之ニ準ジテ解決ニ得ル見込ナリ

左記

外 此電(省)

9

一、家族扶助料、又船大工死七セル場合、尉心籍料ヲ
 兼ネ概ネ一家族当リ法幣四万円、一時金ヲ支
 給ス

二、家族又船大工ハ一時金受領ノ止今後如何ナル
 由ラモ為ザルモトス、船大工死七セルコト判明スル
 場合モ亦同ジ

三、十月二十之日支給セルモノ一家族当リ法幣二万円
 八千四百元ヨリ控除スルモトス

四、^{第一}前項之法幣及尉心籍料ハ日本政府直申スルモノトス

五、前項ノ扶助料又ハ尉心籍料ハ日本政府ノ承認
 ヲ得タル後連絡部長ヨリ第三方面軍司令官
 官ニ借用方申請シ借用ノ上支給スルモノトス

附註 九月二十四日支給セル一家族当リ偽幣

外務

事務

96

10

一七〇萬元ニ就イテハ本支給金ヨリ控除スル如ク
セルモ肯セズ 市政府社会局代表、調停ニ依リ
取敢つズ控除セサル如クトモリ

(終)

外
務
省

97

3

陸軍

電報

軍務局長宛

支那派遣軍總參謀長

總參謀電第六一三號

外務大臣ニ傳ヘラレ度

堀内公使ヨリ

中國ニ於ケル海外派遣

華工問題ニ関シ左記

事項ニ就キ

貴立意見承リ度

一華中ヨリノ南方派遣華工家族ノ生活費

向題ニ関シテハ上海公使并一電ノ通り

ナルモ其ノ後家族側ノ態度ハ漸次不穩

化シアリ現地ニ於ケル派遣華工現狀並

ニ其ノ帰還予想時期等何等ノ報告

ニ接セズ

陸軍

且(ニ語不明)支辨ノ取産之無キヲ以テ
 之ガ處理ニ就テハ軍ハ陸海軍協議ノ結果
 南方派遣軍華工家族ノ生活維持及之ガ
 物爭解決等中國側ニ一任シ之ガ經費(一
 家族月額諸備券百萬元七百家族)ハ一括
 帝國ノ賠償ニ繰入ルノ外ナキモト思考ス
 就テハ右承知相成度
 二内地ヨリ帰還スル華工ニ関シテハ天津宛費
 電ヲ七三号ニ據ル時ハ(ニ語不明)一八二ノ食費
 ニモ足ラズ曩ノ江ノ島丸ニ依リ帰還スル華
 工ニ対シテハ五十倍ノ調整ヲ行ハガラ得ザ
 リシ現状ナルニ就テハ現地ノ状況等勘案ノ
 上送還ニ先ダテマ司令部ニ折衝相

5
5

煙度 右折衝 不能ノ場合ハ南方派遣
華工家族ト同一ノ措置ニ出ズルノ外ナキト
考セシニ付念ノ為

(終)

陸軍

5
5

煙度 右折衝 不能ノ場合ハ南方派遣
華工家族ト同一措置ニ出ズルノ外ナキト
考セシニ付余ノ為

(終)

陸軍

中三部長

本信既布也

向長

為三部長

電信寫

昭和二〇 一一九六一 平

佐世保 本省

十一月二十四日後發

連

兒玉總裁

第八號

河原事務局長

(華人労働者ニ關スル件)

ニ九〇〇人位

長崎及大牟田方面ヨリ當地ニ集レル華人労働者二八八名ハ昨二十三日L・S・Tニテハリヲ港ヲ出發セリ(了)

外務省

101

大行多々
手抄油多々

(印)

一一二五平 受信一八四〇呼一八九二五三三二八七 言

中國被區日本海軍總長給部

海軍省副官

第二二一七〇八番電

上田公使

外務大臣

日本及南方派遣軍工家族紛議ニ關スル件

第二八號在電第一九號ニ關シ手續遺延ヲ計ササルニ付至急承認アリ

及向ハボル不才一及比島派遣軍上家族ノ紛議ニ關シ全部隊及總率ヨ

リ詳率ヨニ打電請不自ニモ御誠アリタルモイト付スルモガセテ御指

示アリ反

南大二電報セリ

略號

緊急電報

宛 次官

甲方參電第一六六九號

甲部隊參謀長(北京)

軍務課

昭

一	一〇	一	一	二	四
二	一〇	一	一	二	四
三	一〇	一	一	二	四
一	一〇	一	一	二	四
二	一〇	一	一	二	四
三	一〇	一	一	二	四
一	一〇	一	一	二	四
二	一〇	一	一	二	四
三	一〇	一	一	二	四

一 中國人勞工歸還一関スル資金融通ノ件ニ関シテハ甲方參
 三電第一六六〇號ヲ以テ連絡ノ通北京行營及財政部
 特派員ニ對シ折衝ヲ重ネ居ルモ行營側ニ本件處理ニ関スル
 權限ヲ附與シテ居ラハルヲ以テ中央ヨリ指令(本限)
 要求ニ應ジ難ク旨ノ回答ナリ既ニ第一册ヲ繕治ニ上陸

シテ、本件ニ関シ今後ノ方法ヲ華側ト明確ニ協議決定ス。
レ度 決定ノ上ハ聯合國最高司令部北平行營天津地
元華側官廳ニ之ヲ徹底セラレ度

三、本件解決ヲ見ル迄ハ前電ノ如ク我が方トシテモ本問題ヨリ全
面的ニ手ヲ引カヌハ今後ノ勞工出發ヲ一時中止セラルルヨリ外
ニ方法ナキモト思料スル付御含ミアリ度

總軍ハ右南京大使館ニ東京ハ外務大臣ニ御傳ヘヲ乞フ

通電先總軍 參考 次官 惠 勇 桐

(終)

略号普通電報

宛次官

甲集團參謀長（北京）

甲方參三電第一六六〇号

日本ヨリ帰還ノ華人勞工ニ就テ既ニ二回ニ互リ約三〇〇ノ受入ヲ
完了シタルモ之ガ持帰リ金ノ交換ニ就テ政府側ノ方針ニ基キ
五十一倍相當額ノ支拂ヲ為スコトトシニ回分ニテ約一億七千
萬円ノ戰備ヲ我方ノ保有資金ヲ以テ完了セリ。然ルニ第
三回船、江ノ島丸既ニ塘沽ニ到着セル外ニ華北交通供
出ノ勞工約八四〇名大連福昌興公司供出ノ勞工約
二〇〇名等既ニ塘沽ニ到着セリ。之等ニ対シ交換資
金差當リ一億六千万ヲ要スル所我方ノ保有資金既
ニ皆無トナリ他方銀行接收ノ爲銀行預金ノ使用モ
不可能トナリ茲ニ集結邦人自治ニハ困窮ニ居ル狀況ナル

為財政部特派員ニ對シ之ガ融通方ニ就キ折衝ヲ重ネ
 居ルモ同特派員トシテモ勞工ノ持帰ル日本銀行券ヲ等
 価ニテ引換ルコトハ考慮スルモ其他ノ資金ノ融通ニ就テ
 ハ権限附與サレ居ラズ檢索ヲ口實ノ下ニ之ヲ拒否シ居リ
 斯クテハ現在天津ニ待機中ノ勞工ハ何時騷擾ヲ惹起
 スルヤモ知レズ其ノ治安ニ及ボス影響モ懸念セラルルノミ
 ナラズ既ニ二回ニ亙ル五十一倍ノ交換ヲ実行シタル現在ト
 シテハ等価ノ聯銀券ト交換スルノミニテハ到底勞工側ノ滿
 足ヲ得ラレザルコトハ明白ナルヲ以テ貴方方針ニ則リ五
 十倍ノ慰勞金ヲ附加シテ交換実施スルコトト之等所
 要ノ資金(今後一船毎ニ少クモ六千乃至一億圓ノ資
 金ノ要アリ)ヲ日本政府ノ責任ニ於テ調達ニ得ル様之
 ガ斡施方ニ關スル權限ヲ財政部特派員又ハ北平行

7

陸軍

管ニ付シ附与セラル様 緊急ニ財政部宛交附セラル
其ノ結果ヲ至急返電アリテ

(一語不明) 共本件融通カ方一絶作困難ナル場合日中側

トシテモ本問題並ヨリ全面的ニ予ヲ引キ華側ノ責任

ニ於テ帰還カ工ノ受入ヲ実施シ持帰金ノ交換ヲモ

然ルヤク実行スル様依頼スヨリ外ニ対策ナキモノト

思料シ居ルニ付念ノ為

總軍ハ在南京大使館 東京ハ外云大臣ニ才伝ヘテ

進サセテ

通電先 左總 参考 陸軍 桐 惠

電信寫

12

昭和二〇 一一九六四 平

福岡
本省

十一月二十四日後發
二十四日後發

管

外務省

福岡縣？

外務省

(至急)

(華工送還ニ關スル件)

大竹事務官、平井調査官へ

榮豊丸二十四日正午出帆問題ノ岡山、三井ノ兩人ハ通譯一名ヲ附添
人トシテ無事送還、青島及上海向乘込指導者至急指定アリ度(了)

108

昭和二〇 一一九六三 平

本省

十一月二十四日 前發
二十四日 後着

管

外務省

外務省

至急

(華人勞務者ニ關スル件)

平井調査官・大竹事務官・袴田囑託へ
 華工側ノ實銀清算ニ係ル不當要求ハ其ノ後全面的ニ波及シ榮豐丸
 乗込ノ各業態ニ於テモ相當ノ紛糾ヲ生シ爲ニ出發延期ノ已ムナキニ
 至ル業態附添人中ニハ軟禁者(瀾門港運)或ハ逃避(岡山三井)セ
 ルモノ等發生岡山ノ口人ハ附添人ナキ爲下船セシムルコトナリタ
 リ大[?]連汽船ノ船員ノ如キハ一名四千圓乃至六千圓程度ヲ要求騒動ニ
 迄立至ラントスル状態ニアリ之カ處置ハ一應業態側ニテ受諾「マ」
 司令部ノ指令ヲ原則トシ殘金ハ日本側會社ノ頂リ金トシテ取扱フコ
 トト爲シ解決ス瀾門港運ノ軟[?]禁者ニ付テハ交渉中ナリ

斯ル傾向ハ今後益々激増スルノミカ種々ノ波瀾ヲ含ミテ結果船側或
ハ附添人等ハ任務放棄ニ至ル惧アリト思考セラル尙乗船離岸ニ至ル
迄一貫セル明確ナル指示ナキ爲各自バラバラ統一遲延ナク國家機密
ノ事務處理トハ思ハレス特ニ善處方煩度
タノカタ
囑託ハ江ノ島丸ニ乗船（出帆未定）ノ旨ムナキニ至レリ

（了）

あまのり

あまのり

中三部長

平井内務

大木

本信取

向長

中三部長

電信寫

昭和二〇 三一 平 名古屋 十一月二十五日一〇〇〇發 連

本省 二十五日一四三二番

終戦第五部長

倭島事務局長

第九號

一日華艦

(在留華人指置ニ關スル件)

米開ト協議ノ上岐阜縣各務ケ原兵舎ノ一部ヲ利用シ所謂「リセブ
シヨンセンター」ヲ十二月五日ヨリ開設シ同方面居住ノ支那人約
一六四〇名ヲ集團的ニ居住セシメ其ノ行動ヲ監督スルコトナレ
ル處右關係支那人ハ從來同方面ニ於テ種々團體的ニ不穩ノ行動ニ
出タル分子ニシテ右各務ケ原ニ起居セシムルコトトナル後モ米軍
側ヘノ遠慮ヨリ必スシモ其ノ行動ヲ充分取締リ得サル狀況ナルニ
付テハ右ヲ出來得ル限り速ニ歸國セシメル様取計フコト適當ト認
メラル米軍側ヨリモ當事務局ニ對シ右ノ歸國ヲ優先的ニ取扱フ様
日本政府中央當局ヘ申請アリ度旨申越セル次第モアルニ付右至急
實現方御配慮仰度右ノ乘船ノ見込等折返御同電ヲ請フ (了)

外務省

外務省

十一月二十六日

札幌 十一月二十六日 一五〇

本省 二十六日 一五二〇

元 玉 秘 紙

石井局長

外 派

(北海道長種事情並ニ華野人強獲處理ニ關スル件)

和 札 第 七 〇 派

二十六日追言議長ヨリ同會決議トシテ本道食糧事情内地ニ比シ進カニ窮迫セルコトヲ述ビ米國側ニ於テ食糧輸入ニ付特別ノ考慮拂ハレタキ旨並ニ華野人強獲向終熄セサルニ付本軍憲兵ノ支援ヲ請フ旨訴ヘタルカ「フルース」少將ハ石事情充分了解シ居ルニ付地方的ニ因來付ル限リ盡力スルト共ニ本件「マ」司令部へ廻達スヘシト約セリ

(了)

極 秘

電信寫

邦人自活ニサハ困窮シ居ル狀況ナル為賦政部特派員ニ對シ
之ガ融通ヲニ就キ折衝ヲ重ネ居ルモ同特派員トシテモ勞
工ノ持歸レル日本銀行券ヲ等價ニテ引換フルコトハ考慮スル
モ其ノ他ノ資金ノ融通ニ就テハ權限附與サレ居ラズ檢索ヲ口
實ノ下ニシテ拒否シ居レリ

斯クテハ現在天津ニ府中ノ勞工ハ何時騷擾ヲ惹起スレヤ
モ知レズ其ノ治安ニ及ボス影響モ懸念セラルルノミナラズ既ニ
二圓ニ至ル五十一倍ノ交換ヲ實行シタル現在トシテハ等價ノ銀
券カト交換スルノミニテハ到底勞工側ノ満足ヲ得ラレザルコ
トハ明白ナルヲ以テ貴方天封ニ則リ五十倍ノ慰勞金ヲ附
如シテ交換實施スルコトト之等所要ノ資金今後一船毎ニ少クモ
六千萬乃至一億圓ノ資金ノ要アリ)ヲ日本政府ノ責任ニ於
テ調達シ得ル様之ガ幹筋ニ関スレ權限ヲ賦政部特派員又ハ
北平行營ニ對シ附與セラルル様緊急ニ賦政部宛テ付テ

其人結果ヲ至急返電アリ度

(一) 彙明 其本件融通が萬一絕對困難ナル場合日本側トシテモ

本問題ヨリ全面的ニ手ヲ引キ革則ノ責任ニ於テ歸還勞工ノ

受入ヲ實現シ持歸金ノ交換ヲモ然レバノ實行スル様依頼スルヨリ

外ニ對策ナキモノト思料シ居レ行念ノ為

總軍ハ右南京大使館 東京ハ外務大臣ニ御傳ヘラセテ

近電先支總 参考陸軍省 (彙明) 桐憲

(2)

包

平井潤吉

担当

第四部
第三課

一一二八受信一六一五詳了
一六五一
發中國事區日本海軍總給部
和東 造

第一八一四五〇電

宛外務大臣

發土山公使

第二五號

隊テ此高及「ホルネオ」車カ使用シタル華人工員ヲ可及的迄ニ歸國
セシムル詠聯台國司令部ニ依頼セラレ及電報シ直キタル處富地家族
ノ安請更貴ナルモノアルニ就テハ狀況至急山内電煩成 (了)

自、連

外務省

本邦云

青島使署より...

...

...

才三部長

文部派遣単位...

六、全...

教二五... 物議ノ件其ノ後該...

電信寫

左記

(1) 第一回支拂 (十一月上旬) 總額法幣九八八〇〇〇元

但國際運輸並ニ石油聯合工員分ニシテ一家族當二〇〇〇元宛土田

公使名優ヲ以テ民間ヨリ借入タリ

(2) 第二回 (十一月下旬) 總額法幣九八八〇〇〇元當軍ニ於テ支拂タ

リ

ニ右ノ現地事情諒察セラレ總參三軍第五八七號 (註十一月三日配布) 及同第六一三號ニ關シ遠方ニ回電方右海軍及外務省ニモ傳ヘラレ候

(了)

電信寫

第二部

大分

昭和二〇 四七 平

本自

禮

十二月

一日

一日

〇〇〇

送

宛 玉 楯 裁

格 礼 第 七 六 號

(華人労働者送達ノ件)

實地第二三號ニ就シ二八〇本副官ニ日本副官ニ於テ勸諭ノ結果既
ニ手記あり

石井 事務局長

楠本公使へ

伏木向り労工中現在未歸還者

関スル件

甲方参三電第一七ニニ辨ニ関ス

華北交通ニ依ル富山縣伏木向り労工中未歸還者

指名ニ付 其 調査セル処 該当者ハ既ニ

客年拾二月一日 博多港出帆、辰日丸ニテ

送還済トナリ居リ。

電信寫

北相二〇

平

北京
本省

十二月五日
〇七三〇發
七日〇九三三着

管

吉田外務大臣

通本公使

手付多し

平野多し

安野多し

甲部隊參謀長經田・中方參三軍第一七二二號

華北交通（一語不明）ニ依ル伏木同ク勞工中現在未歸還者十名（出

發地倉道整理番號五・三五・四〇・四一・四九・七四・一四〇・一

五一・一八七・四三〇）ニ關シ家族團代表者トシテ「頭ヨリ之カ早

急送還方用三抽甲入レアリ現地治安ノ調査セアルニ付右歸國隊定

引返返還アリ度

69

大日本帝國政府

昭和二十一年一月二十一日

內務省警保局公安課

小川 專 務 官

外務省管理局

大 竹 里 務 官 殿

伏木ニ於ケル殘留莖葉ニ關スル調査回答ノ件

兼テ御照會アリタル北京楠木公使ヨリ外務大臣宛照會ニ係ル宮山縣

伏木向ケ莖葉未歸還者調査ノ件別添宮山縣回答ノ如ク採擷済ノ者ト

照料ヲラルルニ付可然御處理相成度

大日本帝國政府

昭和二十一年一月十四日午後一時

宮山縣警察部長

內務省警保局長安藤長

一九日一三時一五分曾二七一五三〇番曾返本縣内ニハ確留莖等無
ク未歸還者ト稱ラルル一〇タハ一二日一口憶多港州船ノ辰日丸ニテ
送還済ナリ

外務省 竹島 理局

大 竹島 效力 官



東京都麴町區霞ヶ關壹丁目貳番地

内

務

省

一月二十九

電話番號 (私設交換機) 代表
ニテ各局課
通ズ
銀座座 5757-57
銀座座 5556-56
銀座座 5663-63
番番番 (101010)

小ツ事カハ
保る公女深

(長型三號)

加三部長

大正
百五
後
直
後
了

電信寫

昭和二〇

五七 平

札幌
本省

十二月四日
四日一〇三〇發

管

兒玉總裁

(其人勞務者等取締ニ關スル件)

石井事務局長

給札第八〇號

貴電第二二二號ニ關シ

第七師團ヨリ本官宛書翰ハ十月二十九日附ニシテ本官上京ノ際松島
次官口頭報告ノ上同文寫森重管理局長ニ手交シ置キタル次第ナルカ
十一月二十三日附ヲ以テ第七師團ヨリ本官宛書翰ヲ以テ犯罪ノ經
重ニ拘ラス適當ナル日本法廷ニ於テ裁判シタル後四十八時間以内ニ
判決ノ結果ヲ通報アリタキ旨申越セリ委細郵送ス(了)

極秘

電信寫

大行子
平利印書

給利二〇

青島 十二月四日一七〇〇
本省 五日一六三七

吉田外務大臣

喜多總領事

（柳原電第六三九號・甲組隊參謀長（天津）經由）

日丸二依ル第一次勞工受入準備ハ略々完了セルモ現在青島西北方
六〇軒ノ蓋村ニ於テ國共軍交戦中ニテ富分ハ開通ノ見込立タス且
金物資共ニ第二次以降ハ調達次第ニ函難トナル見込ニ付勞工ノ乘船
ハ今度限り止メル様御此處煩度
（了）

外務省

124

才一証長

昭和二〇

平

上海 十二月

六日一六〇〇着

官

吉田外務大臣

土田公使

第三五號 海軍神田第〇六一三五六番電

一、往電第二五號ニ關シ南方派遣華人「員ニ關シ左記事情第一僱員省トモ連絡調査ノ上至急回電相煩ラハシ度

記

石油聯合波「フイリツピン」派遣華人「員ノ一部ハ最近上海ニ歸還シ「ヤマ」九連波「フイリツピン」派遣「員ヨリハ家族ニ連絡アリタルモ「コウサイ」連波「シンガポール」及「ホルネオ」派遣「員ニ關シテハ全然消息無ク家族ハ不安動搖ノ巴ヲ示シ事態解決ニ困難ヲ來シツツアリ

二、往電第一九號及第二八號ニ關シ今由明慶凡ニテ歸還セル留日華人

「員一三五〇名ハ内地ニ於テ何等退職額金ニ類スルモノ支給ヲ受ケ居ラスト併シ居ルニ付今後返還ニ事情至急回電アリ度

外務省 上海

外務省	內務省	陸軍省	海軍省	航空	有未	法務	稅務	法務	總理局	扶助	交通	復員	復員	人事	業務	資材	沙外	總務	總務	伴史	醫務	翻譯	文書	大官
-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

涉外力

外務省管理局

略號

至急電報

宛 次官

總參三覽第八一七號

支那派遣軍總參謀長 (南京)

總參三覽第八一七號閱聯

登集參覽第九六七號轉覽登集參覽第九五八號閱聯

內務司令部社會部指示依り本日一家族ニ儲備

券百萬元宛(總額七億七千四百萬元)陸軍部發

算上貸與也

涉外課

一〇六
一〇七
一〇八
一〇九
一一〇
一一一
一一二
一一三
一一四
一一五
一一六
一一七
一一八
一一九
一二〇
一二一
一二二
一二三
一二四
一二五
一二六
一二七
一二八
一二九
一三〇
一三一
一三二
一三三
一三四
一三五
一三六
一三七
一三八
一三九
一四〇
一四一
一四二
一四三
一四四
一四五
一四六
一四七
一四八
一四九
一五〇
一五一
一五二
一五三
一五四
一五五
一五六
一五七
一五八
一五九
一六〇
一六一
一六二
一六三
一六四
一六五
一六六
一六七
一六八
一六九
一七〇
一七一
一七二
一七三
一七四
一七五
一七六
一七七
一七八
一七九
一八〇
一八一
一八二
一八三
一八四
一八五
一八六
一八七
一八八
一八九
一九〇
一九一
一九二
一九三
一九四
一九五
一九六
一九七
一九八
一九九
二〇〇

他日重慶ヨリ正式ノ指令アラバ返濟ヲ受クル旨

(2) 當方ノ事情御諒察ノ上至急雨後ノ支拂處理アリ度

重ネテ具申ス

ニ右現地事情諒察ノ上總參三電第五八七號(通註十月二十

二日配布)及同第六二五號(外務省依頼)(通註十月七日

配布單務局長宛)ニ付速カニ何分ノ指示アリ度

三本件大使館及海軍ト協議濟ニ付外務省及ニ復指

ニモ傳ヘラレ度

(終)

外務大臣

(印)

昭和二〇

平

北京 十二月八日
本日 八日二三三〇看

官

言田外務大臣

榎本公使

(陸軍部出、甲方参三电第一七二六號)

車務電第八二五號迄

華人勞工ノ持歸金ニ付テ第二回船送ノ分ニ付テ大使館于持資金ヲ以テ五一倍相當額ノ支拂ヲ了シタル(支拂額概算一萬八千三百萬圓)第三回加以降ニ付テ資金百無トナリ華團ヨリノ融通ヲ懇請シタルモ許可セラレサル爲至然支拂未了ナリ從ツテ勞工ハ極テ收容所ニ收容ノ儘(現在既ニ六三〇)名ニ達ス(今日ニ及ヒ居リ)形勢不穩ナルモノアル處當方トシテハ當初ノ方針通り持歸額ノ五一倍相當額(内五〇倍ハ慰勞金ノ名目ニ以ル)ノ支拂ヲ繼續ノ外ヲキモノト認メオル

二付員方ヨリ聯合國司令部ト石持歸金支拂方針ヲ明確ニ協議決定セラル

加一長

2

所安實針本例通ヲ受ケ付ラル様打衝アリ度
向甲万參三電第一六六〇及甲万參三電第一六六九並參照アリ度

(了)

128

官乙

中三部長

石井

本信配布先
局長

中三部長

電信寫

昭和二〇

八〇平

輪岡
本省

十二月八日一〇一五發
八日一五〇〇着

連

吉田外務大臣

(華勞歸還ニ關スル件)

鹿兒島縣知事

第〇七・一〇一五號

本件第〇五・一〇三〇番電關聯

岩手縣釜石「タイヤ」華勞四二名、秋田華勞九名歸還ニ關シ上海
向船名ヲ指摘シタル「マ」司令部ノ乗船許可指令方至急取計アリ

度

(了)

外務省

129

急電

森三太郎

昭和二〇

平

京都 十二月八日 一三〇〇 發
本管 八日 一三〇〇 着
連

兒玉總戎

第四七號 (電話)

(非日本人ノ引揚ニ關スル件)

學生省榮原局長宛北原學生會務員發電報御參考迄時電ス

一七日「ヨールドウエル」少佐ハ小官ニ對シ大要左ノ如キ敬重大ナル警告ヲ爲セリ

非日本人ノ引揚ヲ圓滑ナラシムル爲聯合軍力第一次ノ指令ヲ發シテヨリ既ニ二月ヲ經過セル今日尙各地方ニ於テ彼等ノ動搖混亂乃至不女ヲ惹起シツツアルハ日本政府ノ計畫殊ニ遺憾計畫ハ比較的良ナルニモ何ラス貴寮ノ事務運用ニ於テ中央及地方政府力熱意ト努力トヲ缺ク故ナリト忠料ス例ヘハ自分ノ手許ニ鮮人及華人等ヨリ具ノ歸國方法ニ關シ連日數件ノ照會アリ彼等自身力還送計

卷二の一片ノ省証スラ付セス之ヲシテ知フシメサルカ如キ状態ノ
付在スルカ如キコトハ了解ニ苦シム所ニシテ日本政府ノ誠意ヲ疑
ハサルヲ待ス

此ノ應答をセンカ十二月三日附指令AG三七〇、〇五第三項ニ依
リ地方木軍自衛力地方廳ニ代リテ直接事務ヲ執行スルコトニナル
ヤモ計ラレス凡テ今日ノ混亂状態ハ數次ニ巨ル聯合軍指令ヲ日本
政府カ忠實ニ遵守セサル結果ナリト志料ス

一少佐ハ又六日部下ヲ舞鶴ニ派遣シタル處境地ノ較高責任者タル援
護局長カ舞鶴ヲ離レ居リタルコトヲ指摘セリ

三石ノ如キ警告ニ對シテハ政府ノ名譽ニ損ケテ中央地方ヲ逸シ事務
執行態度ニ於ケル急進且飛躍的改善ヲ實行スルコトヲ以テノミ答
フヘキモノト信ス之カ爲執ルヘキ指圖ハ多々アルヘキモ小官ハ左
ノ二點コソハ寸時ヲ争ヒ實現スヘキ事項ナリト志料ス何等ノ好マ
シキ情報ヲ有セスシテ是日急所ヲ突カシツツアル小官ノ苦衷ヲモ

御賢察ノ上是非共大至急御措置願上度

(1) 接護局ハ拙速ヲ尊ヒテ一日モ早ク充實セシメ活動段階ニ入ラシ

ムルコト

(2) 京都電第一號第二項(1)ニシテ連絡セル所ナルモ各地ニ在ル非日

本人ノ不安動搖混亂ヲ防止スル爲中央地方ヲ通シ彼等ノ歸國手

續・現在ノ實狀等ニ關シ懇切丁寧ナル通報ヲ各地新聞「ラジオ」

等ヲ通シ實施スルコト特ニ本件ハ常時繼續的ニ行フコト

四關西方面地方長官ニ對シテハ右(2)ノ主旨ヲ以テ急速處理ノ必要ア

リシ爲秋山事務局長名ニテ昨七日電報指令セリ

五尙本件ニ關シ執ラルル措置殊ニ地方廳宛電報内容ハ其ノ都度小官

ニ電報連絡願上ク

六秋山京都事務局長ヨリ中央事務局長ニ電報セリ(了)

電信寫

大石の事
平井の事

略號

三急電報

死 八日

三急電報 八七一號

三急電報 八一二號

三急電報 九六七號 三急電報 九五八號

山崎司令前駐三陸管部ノ指示ニ依リ今日一歩は二領區分百萬元宛

(三急電報 七四七十四百萬元) 此中前移身ノ上貨兵セリ

他日重慶ヨリ正式ノ指示アラハ迄何ゾ受クル言

三急電報ノ指示ノ上三急電報ノ又加處至アリ度重不テ具申ス

三石) 現地無雨諒祭ノ上三急電報 八七號 (通社、十一月二十二

日記布) 及同號六一三號 (外務省電報) (通社十一月七日配布)

略二〇 一六〇 一六〇 八

七 一〇七〇〇〇 一六〇〇〇 〇

又加派這車線參謀長 (海軍)

身務局以外ニ付込カニ何分ノ指示アリ
三、本件入役師及同阜ト協議濟ニ付外務省及一後信ニモ傳ヘラレ度

(了)

内務省警務課
 小林一進清 (十二、十四)
 一月十五日午後十日頃迄ニ完成ノ予定

文書
 渉外課
 外務省

略號

第 45 號

至急電報譯

一月一日午前午後
 一月三日午前午後
 一月五日午前午後
 一月七日午前午後
 一月九日午前午後
 一月十一日午前午後
 一月十三日午前午後
 一月十五日午前午後
 一月十七日午前午後
 一月十九日午前午後
 一月二十一日午前午後
 一月二十三日午前午後
 一月二十五日午前午後
 一月二十七日午前午後
 一月二十九年午前午後
 一月三十一日午前午後

次官宛

發信者

甲部隊參謀長

(北京)

甲方參三電第一七四九號

外務大臣へ北京公使ヨリ

華北勞工協會接收ノ際中國側ヨリ要請アリタ
 ルニ付内地向華人勞務者名簿(地域別全員)
 作製セシメ取纏メノ上最近便ニテ至急發送方
 特ニ御配慮相煩ハシ度
 追ッテ當方ニ於テ右基礎資料ヲ當時時局ノ関
 係上燒失シタルモノナルヲ以テ念ノ爲

通電先 次官 參考 第一百十八師團

陸軍